

## 平成 2 5 年度第 4 回

### 流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

#### 1 開催日時

平成 2 5 年 1 0 月 2 4 日（木）

1 6 時 0 0 分から 1 7 時 0 5 分

#### 2 開催場所

流山市役所 第 2 庁舎 3 0 1 会議室

#### 3 出席者

黒田委員、稲田委員、鈴木（美）委員、安藤委員、渡部委員、池上委員、鈴木（孝）委員、小山委員、越智委員、大津委員、奈良委員  
出席 1 1 名・欠席 5 名

#### 4 次第

##### 議題

- （１） 地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について
- （２） 地域密着型サービス事業者の廃止について
- （３） その他

#### 5 議事（要旨）

##### ・会長

本日の出席状況について、出席 1 1 名、欠席 5 名で、半数以上の出席により本協議会の成立について報告する。

議題（１）について、事務局から説明を。

##### ・事務局

地域密着型サービス事業所の指定更新について

メディカル・ケア・サービス株式会社の愛の家グループホーム流山美原から、1 0 月 3 1 日で指定期間が満了することから、9 月 1 8 日付けで指定更新の申請があった。書類審査、1 0 月 8 日に現地調査で指

定内容を確認し、基準を満たしていることを確認した。現在当該グループホームは2ユニット18名定員だが、現在満室である。本協議会での意見を頂いた上で、11月1日付けで指定更新したい。

なお、この議題についての意見シートの提出はなかった。

- ・ 会長

委員から質問をお願いします。

- ・ 委員

利用の料金は6年前と変更はないか

- ・ 事務局

6年間の指定期間の中で、24年9月に光熱水費を22000円から23000円に上げている。

- ・ 委員

更新なので問題ないかと思うが、先日福岡で整形外科の火災があったが、宿直の人数が手薄だったこと、防火設備などの問題もあったようだが、人数の確保を法に定める以上に手厚くすることについてはどうか。

- ・ 事務局

このような事故はあってはならないことで、基準をクリアすることはもちろん、日ごろの心構えが肝要と考えている。日ごろから地域住民との連携や、避難訓練を行っている。避難訓練その他の行事を通じて、地域との交流を図る施設が増えている。他のグループホームにも地域と一体となった体制づくりを指導していきたい。

- ・ 委員

事故があったかどうか、その報告の迅速性、家族へどのように連絡しているか。

- ・ 事務局

事故報告書は、利用者家族への連絡が遅くなったことで苦情となった事例が過去にあり、医療機関にかかるような事故については提出させている。

この事業所からも、骨折等の事故報告書は入っている。

報告の迅速性については、電話等で入る事業所もあるが、書類は1週間ほどかかることもある。

- ・ 委員

事故はあってはならないが、起こり得ることである。報告が迅速に行われていると、家族の不満もない。事故報告を出す担当が決まっていない事業所もあると聞いている。

- ・ 委員

スタッフの異動が6年間にあったか。事業所の実績はどうか。

- ・ 事務局

職員の出入りについては、家庭の都合が約半数、業務のミスマッチによる退職もあり、管理者としても苦慮している課題であると認識している。

経験の浅い職員には、管理者と計画作成担当で、職員を指導していると聞き取っている。この事業所は常時満床であり、実績を重ねていると認識している。

- ・ 委員

福祉の仕事はとても薄給で職員が定着しない。離職者がいても手薄にはなっておらず人数は配置しながら一生懸命やっていると思う。

- ・ 会長

利用者の状態像は、定数通りの職員では負担がかかるような利用者がいるような状態か。

- ・ 事務局

2ユニットの事業所だが、介護度によっては日常のことが難しくなっているという。利用者にストレスかどうかは、見たところではわからない。

- ・ 会長

意見が出尽くしたということで、委員の方から出た意見を踏まえて手続きを。

議題（2）について、事務局から説明を。

- ・ 事務局

平成25年9月25日付けで、認知症対応型通所介護事業所の、デイサービスセンターほのぼのかんから10月31日をもって廃止する旨の届け出があった。9月30日の利用者1名が10月1日から特別養護老人ホームに入居するため、現在の利用者はいない。

- ・ 委員  
廃止の原因は。
- ・ 事務局  
利用者が伸びないこと。  
昨年度から利用者が伸びないという相談はあったが、これ以上継続することは難しいということで届出があった。
- ・ 会長  
市内の認知症デイサービスは何か所あるか。定員充足率はどうなっているか。
- ・ 事務局  
市内２か所。定員を満たす日はないので大変だと聞き取っている。
- ・ 委員  
大きな施設が認知症も受け入れてデイサービスをやっているから、そこに利用者が集まるということか。
- ・ 委員  
一般のデイサービスも認知症を受け入れている
- ・ 委員  
認知症の方は一般のデイサービスにたくさんいる。普通のデイサービスでも職員が研修を受けていたり、やる気があって、上手に対応してくれるとことはたくさんある。  
お泊りデイに流れているように思う。定員も少なく、家族が疲れたときに、臨機応変に泊まることのできるので、お泊りデイはその需要を満たしていると思う。  
また、認知症対応型デイは単位数が高い。いろいろなサービスを使って限度額いっぱい使っている方には、少しでも限度額オーバーしないようにと考えて計算する。
- ・ 委員  
ある通常デイサービスでは、８０人ほどの利用者のうち半数は認知症だと聞いた。それだけの人数では、ほとんど一人一人を見ていない。単価も高いし、家でヘルパーさんでも来てもらったほうがいいのではないか。
- ・ 会長

もともと地域密着型サービスは、認知症の住民のために開始されたサービスで、提供する側にも思いがあって始めたサービスだと思う。住民にとって一番望ましいサービスを作っていけるといいと思う。

- ・ 副会長

認知症を患っている人はどのような人なのかということはほとんどわかっていない。認知症についてはわかっていても、その病気の人がどのような振る舞いをするかわかっていない。自己実現といっても、認知症の人が「その人らしく」生きると周囲はとても大変。家族はわかっていても施設の人はわからない。

グループホームでの看取りがどのくらいできるのか。職員や利用者が親しく付き合っているのに、死に場所を別に求めることがつらい。しかし、ヘルパーは人が死ぬ瞬間を見たことがない人ばかりで、非常に怖がる。

- ・ 事務局

市内でも看取りまでしている事業所はある。

グループホームは認知症の方にとって「我が家」である。我が家で最期までというのは大変人間らしい。国は看取りを介護報酬で手厚く評価して誘導しているが、機能していないのが実態である。

厚生労働省は目指す方向に現場がついて行っていないことを実感しており、なんとかしなくてはならないと考えてはいる。現場でモデル的取り組みを作っていき、国が汲み取り、国を介して地方へ行くようになる。

流山は在宅医療に取り組む医師が多く、今後看取りを希望するグループホームには、協力いただけるよう仲立ちをしていきたい。

- ・ 副会長

「その人らしさ」を打ち消そうとすることでB P S D（認知症の周辺症状）が出てくる。受入側がどのくらい受け入れてもらえるのか。

- ・ 会長

政策誘導には限界がでている。住民のニーズをうまく把握して、あてはまるサービスを作っていくことが大事。

「どうして選ばれないのか」と考える。

- ・ 委員

小さい事業所はよほど重症で、よそのデイサービスで断られるような方しか来ない。

- ・ 委員

状態が安定して、よいサービスなので曜日を増やしたいと希望があっても、利用者と合わない利用者がいると、希望があっても増やせない。そのような難しさがあると感じた。

- ・ 委員

介護は理念や思いやりだけではなく、ビジネス化している。スケールメリットもあり、小さい事業所が特色を出そうとしてもなかなか難しい。一自治体がかんばってもどうなのか。今後地域密着はどうなるのか。

- ・ 会長

この案件を頂いたときに、市外の事業所を選択した例を思い出した。市内のサービスが選ばれない理由があるならば、そこを改善しないといけないのではないか。

- ・ 委員

小規模多機能も行き詰っている。制度とニーズが外れてきている。

- ・ 副会長

認知症という病気を現場の人がわかってきた。箱ものを作っても、合わない人がいれば大変なことになる。赤字でもそのまま行くしかないという考えではいけない。流山市が国にモデルを提供できるように先進的に頑張ってもらいたい。

- ・ 事務局

流山にはケアマネの連絡会があり、積極的に活動している。私たちはケアマネに期待するところが大きい。介護保険制度はケアマネジメントを重要視している。

現場では、その方の状態像に合ったサービスをお勧めいただきたい。

- ・ 委員

小規模多機能の話が出たが、ケアマネも国の理想のような形で動いていたら、たくさん使おうと思う。しかし、「泊まりたい」と言っても夜勤の手当ができないから泊まれないと断られることがあると、理想通りにはいかない。小規模多機能は使いづらいとケアマネに浸透してい

ると感じる。

- ・会長

廃止については、利用者もおらず経営的にも困難ということであるので、手続きを進めていただきたい。

その他として事務局から。

- ・事務局

次回は11月14日木曜日を予定します。

議題は地域包括支援センター第三者評価結果で、時間等詳細は追ってご連絡します。